

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 木/2	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	火山と災害 Volcano and Volcanic Hazards		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスマワー 担当教員: 後藤恵之輔 / Eメールアドレス:gotoh@civil.nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 工学部社会開発工学科・環境計画研究室 / オフィスマワー: 火曜日～木曜日の原則17時以降、ただし事前にアポイントをとること			
担当教員(オムニバス科目等)	馬越(環境)、後藤(恵)(工)、高山(水産)、小原(教育)、太田(医)、高橋(工)、松岡(水産)、後藤(健)(熱研)		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 <p>授業のねらい: 日本は災害の国である。また長崎県は災害の多い県のひとつである。とくに、雲仙普賢岳の火山災害、これに伴う二次災害、復興対策などはさまざまな災害の代表でもあり、学生たちがこれらの災害への取り組みを理解することは、これからの日本を担っていく上で必要な知識の一つである。</p> <p>授業方法: 8人の教員がそれぞれ2回(中には1回)の講義を担当する。授業の方法は、テキストを中心として、パワーポイント、OHP、スライド、ビデオの視聴覚機器を駆使し、配付資料を時には利用しながら行っていく。</p> <p>授業到達目標: 火山の定義・実際、および火山災害の種類と内容を理解の基礎として、雲仙火山災害をケーススタディに、火山災害の特徴、人間や生物・自然環境への影響、火山災害への対策と復興などを取り上げ、それぞれの理解を深める。</p>			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) <p>授業内容(概要) 火山とは何かの定義から始め、世界と日本の火山の実際を知った後、火山災害の種類と内容を学ぶ。 これらを基礎知識として、ケーススタディとして、長崎県の災害史上最大規模の自然災害の一つとなった、雲仙火山災害を取り上げる。この火山災害が、水産業や生物、火山植生、子供たち、人々の健康などへ、どのような影響を与えたかを学び、火山災害からどのようにして復旧したか、また復興がなされたかを知る。火山には、これら陰の面としての災害の一方に、温泉・景観などの光の面も持つことから、火山の活用についても触れる。 これら授業の間に、地球温暖化とも関係する、火山諸島ガラパゴスのなりたちや生物進化、生物の生息状況などを話題提供として授業する。</p> <p>第1回: 4/12 火山とは (馬越) 第2回: 4/19 火山災害の種類と内容 (後藤(恵)) 第3回: 4/26 雲仙火山災害の概要 (馬越) 第4回: 5/10 水産業への影響(その1) (高山) 第5回: 5/17 水産業への影響(その2) (高山) 第6回: 5/24 子供たちへの影響(その1) (小原) 第7回: 6/7 子供たちへの影響(その2) (小原) 第8回: 6/14 植生の回復 (後藤(健)) 第9回: 6/21 火山諸島ガラパゴス (松岡) 第10回: 6/28 健康への影響(その1) (太田) 第11回: 7/5 健康への影響(その2) (太田) 第12回: 7/12 火山災害からの復旧・復興(その1) (高橋) 第13回: 7/19 火山災害からの復旧・復興(その2) (高橋) 第14回: 7/26 火山の活用 (後藤(恵)) 第15回: 予備日</p>			
キーワード	火山、火山災害、雲仙火山災害、生物・植生、水産業、子供・健康、復旧・復興		
教科書・教材・参考書	テキスト: 長崎大学「火山と災害」教育研究グループ編著:『火山 - 雲仙火山災害がもたらしたもの -』長崎出島文庫(全国図書館協会優良図書) 教材: 配布資料 参考書: 長崎新聞社・後藤恵之輔:『復興の「教訓」 - 「普賢岳」からよみがえった10年』小学館		
成績評価の方法・基準等	毎回提出のレポートによって成績評価を行う。 レポートには、講義の概要とコメントを書くが、時には指示により、講義概要の代わりに宿題が出されることがある。		
受講要件(履修条件)	なし		
本科目の位置づけ / 学習・教育目標	関連する全学教育の科目として、「暮らしと地球環境学」(1年後期)があり、本科目につづく講義として受講するとよい。		
備考(準備学習等)	世界と日本には多くの火山が分布すること、いったん火山災害が起きれば広域、長期に及んだり、多数の死者を出したりすること、などから、日ごろの新聞・テレビのニュースに気をつけること。		